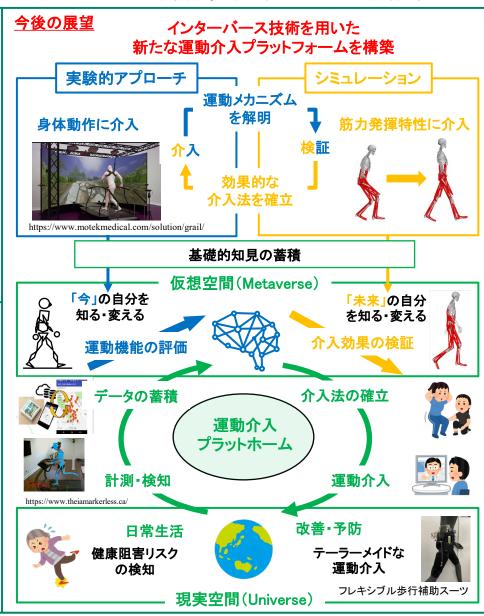


筋骨格シミュレーションを用いた 効果的な運動介入法提案システムの構築



運動機能拡張研究チーム 工藤将馬

本研究のポイント 身体動作と筋力発揮特性との因果関係が分かる 因果関係の解明によって個人特性に応じた運動介入が可能 運動介入の効果をシミュレートすることが可能 Keywords:バイオメカニクス・健康増進・CPSシステム 動作の原因を探る「今」の自分を知る技術 身体動作 骨格運動 神経・筋活動 介入効果を検証する「未来」の自分を知る技術 研究成果 起立困難な高齢者の筋力発揮メカニズムを解明 立ち上がりが困難な高齢者モデル 筋張力:30%↑, 筋収縮速度:30%↑, 筋活動レベル:20%↑ 介入後



連絡先: (連携について)人間拡張研究センター harc-liaison-ml@aist.go.jp, (研究内容について) shoma-kudou@aist.go.jp